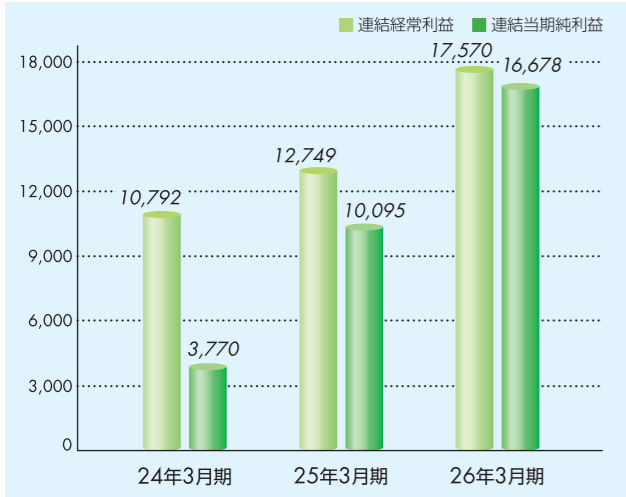
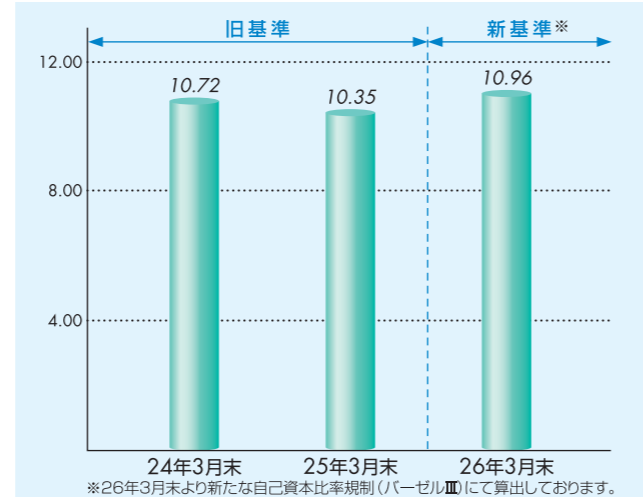


連結ベース

■ 連結経常利益・連結当期純利益 (単位:百万円)

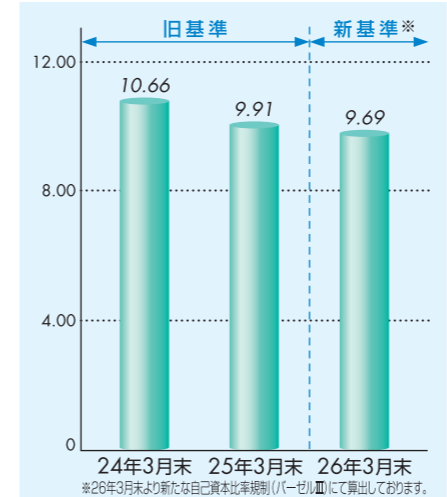


■ 連結自己資本比率(国内基準) (単位:%)

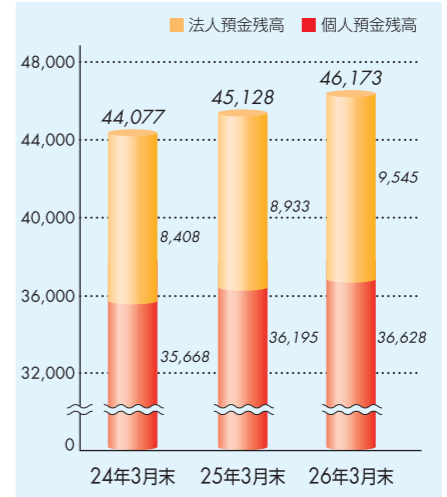


単体ベース

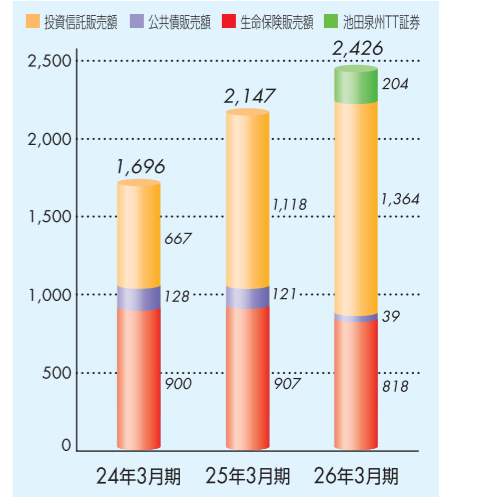
■ 単体自己資本比率(国内基準) (単位:%)



■ 預金残高 (単位:億円)

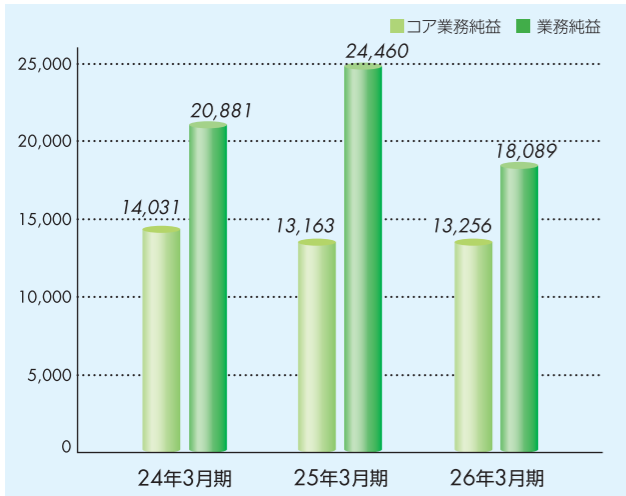


■ 預かり資産販売額 (単位:億円)

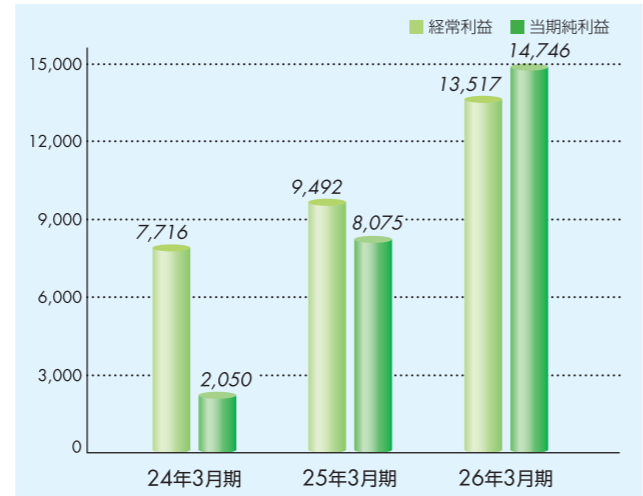


単体ベース

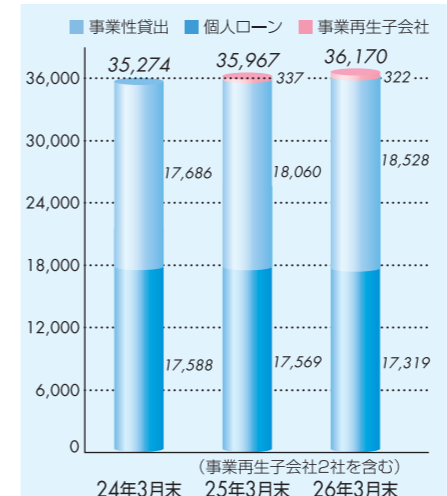
■ コア業務純益・業務純益 (単位:百万円)



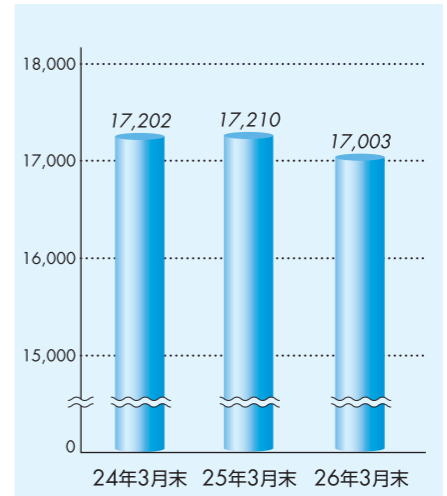
■ 経常利益・当期純利益 (単位:百万円)



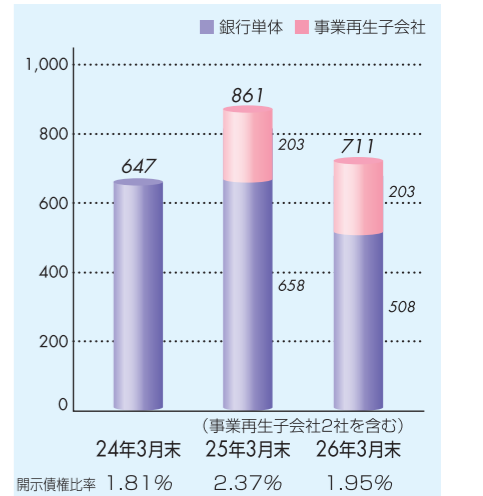
■ 貸出金残高 (単位:億円)



■ 住宅ローン残高 (単位:億円)



■ 金融再生法開示債権残高・比率 (単位:億円)



業績の概要(連結)

池田泉州銀行グループの平成26年3月期の連結業績につきましては、連結経常収益は、預かり資産販売手数料の増収による役務取引等収益の増加や株式等売却益などのその他経常収益の増加がありましたが、貸出金利回りの低下を主因とした資金運用収益の減少や国債等債券売却益などのその他業務収益の減少により、平成25年3月期比72億82百万円減少し、1,043億15百万円となりました。

一方、連結経常費用は、預金などの調達利回りの低下を主因とした資金調達費用の減少、経費などの削減による営業経費の減少や与信関連費用などのその他経常費用の減少などにより、平成25年3月期比121億4百万円減少し、867億44百万円となりました。

以上の結果、連結経常利益は平成25年3月期比48億21百万円増加し、175億70百万円となりました。また、特別利益として退職給付信託設定益22億91百万円、法人税等合計として25億31百万円などを計上後の連結当期純利益は平成25年3月期比65億83百万円増加し、166億78百万円となりました。

業績の概要(単体)

池田泉州銀行の平成26年3月期の単体業績につきましては、経常収益は、役務取引等収益などの増加がありましたが、資金運用収益などの減少により、928億84百万円となりました。経常費用は、資金調達費用、営業経費や与信関連費用などの減少により、793億67百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、25年3月期比40億25百万円増加して、135億17百万円となり、コア業務純益は、25年3月期比93百万円増加して、132億56百万円となり、業務純益は、63億71百万円減少して、180億89百万円となりました。

また、特別損益並びに法人税等合計を計上後の当期純利益は、66億71百万円増加して、147億46百万

円となりました。

預金残高については、平成26年3月末残高は平成25年3月末比1,045億円増加し、4兆6,173億円となりました。池田泉州TT証券の開業に伴い、投資信託販売額・預かり資産残高は、ともに増加いたしました。

また、事業再生子会社2社分を含めた貸出金残高についても、平成26年3月末残高は平成25年3月末比203億円増加し、3兆6,170億円となりました。

なお、平成26年3月末の金融再生法開示債権残高は、事業再生子会社2社分を含め、平成25年3月末比150億円減少して711億円となりました。この結果、平成26年3月末の開示債権比率は、25年3月末比0.42%減少して1.95%となりました。